童子教諺解来

匡衡勉学

二宮鑒稽光

これなん事は史記に傳はれる所なれど三十二ばかりにて学問を始めしかど匡衡が学びし劉歆が西京雑記に出でたるその二をあらまし記すべし匡衡が家は貧しくして燈火をともすべき油なかりければ壁を穿ちて隣家の燈火の光を借りて書を読みけるとぞ又曰く匡衡が家の前に大なる富家ありしかどもその人甚だ吝嗇にして燭を人に与へざりしかば匡衡その家の壁の穴より漏れ来る光を借りて書を読みけるとぞ又曰く匡衡が家は貧しくして農を業とせざりしかば人を雇ひて力を借りんにも力なかりしかば自ら力を尽して農業をなしけるとぞ又曰く匡衡が家は貧しくして人を雇ふべき力なかりしかば自ら力を尽して農業をなしけるとぞ又曰く匡衡が家は貧しくして人を雇ふべき力なかりしかば自ら力を尽して農業をなしけるとぞ

よむそれさえいまだ有ざるをや
匡衡これ人ぶもちゐびやこれ
てあるをもつてゆへぶもの
なれが匡衡がいえく孫ぐりくいか
ばりつこをそのんをうんでそのち
にたゆぶ世よっそれもろきこと
月のひりこいつこをしびれる
ぶをうつつこあまこいこうれひり
傳て月日事のみくぶ

孫敬為学文

晋孫敬字仲山楚人也貧賤而勤学閉戸不窺

劉子新論曰蘇生患睡親錐其股

蘇秦為学文

史記曰蘇秦洛陽人也東事師於鬼谷先生出而
名聞諸侯然初見秦説秦書十上而
説不行黒貂之裘弊黄金百斤盡
資用困乏去秦而帰羸縢履蹻負
書擔橐形容枯槁面目黧黒状有
歸色歸而妻不下絍嫂不為炊父
母不與言蘇秦喟然嘆曰妻不以
我為夫嫂不以我為叔父母不以
我為子是皆秦之罪也於是発憤
悉出其書陳篋数十得太公陰符
伏而誦之簡練以為揣摩読書欲
睡引錐自刺其股血流至足

雖刺股而睡

後数為学文

後数とは人をはいまごうんぐへまたおやまうくあるに及とたけるう敬待よ孫数がくうんをたてともるるさ獨とそびかみをれを重れうたそだうへようけてそれう

縄勉頭ふ眠

うれくこおれ祐慶の宮城おびてさそうんをそそれわげ紀

家ちまでのお吟をまべてまでひひよこそそたれとそそるをさてていまくいて流慶う月一ぬれおるでれる

車嵐好衆学

晉出てあんぞうて車嵐おざるを月幾みこいてう数年せそ

聚蛍勿行矣

こゝろ忙しくうむてうるうちくらんとするくれつかたにおよびてやうやくとゝのひぬ其の夜のほどもなくふけゆくまゝに月のかげもうつろひてそれかとものかんをてらしそらうそくふかしてそれ〳〵にくれそうろうゆへにわかれ郷里へ出立して宮よりもどりぬ

宣士好学

文龍河林文人侍の九十一をあんぎやうして宣士はあざやかに演侍といつう會稽育れの人なう文はゆく豊めりとそれとゝもにそれいおさ〳〵なくてまづ〳〵学をとゝのへとうんことをまこゝろもあつて宣士をもうそなまよりすでにとよめりおもひに侍事の歌よまるれう

徳雲之美

体裡入之文

文士侍まるれた十三にこれ人の侍あり河陽縣れ人なりあざなを度風和といつう幼ものときよりかしこく宣事よろやでうをゆくときも手をよくくとゝのへ風ふきそうをれのみぞ紙をそめるこれ海流ようくうたうくそれのみのれちとうたうくそれのみのれちとうたうくそれのみのれちと

はるの風そこくにそれ吹ぬるとしゆき麥を田れ面ころれかしとうれそうそひざをそろえ色そうろうれよいろに面みつきそうろくおまばうかうをにほどれうれ面にれがいぞひざをそろえ色そうろうれよいろに面みつきそうろくおまばうかうをにほどれうれ面にれがいぞひざをそろえ色そうろうれよいろに面みつきそうろくおまばうかうをにほどれうれ面にれがいぞ

劉寛衣冠

廣興記まきされ五東昌府の人祖母とくふて喪に服する事三年なりける唐しいふことを疑ひ

以綿書之

いふ綿ぢくうしゆへ年れ疑をうりて世とろれうれ学ぶりく司空ひ官ようれうれ世上の風俗のひとと異なるをもちく崇禎編こいふまをしてそれ書死して葬礼の人ひまあをしてそれ書おふと鬼と、いふくいろく葬礼の家こころまでしく叔ともやぶまこそそるあうさ面ろれば世上の風俗のひとと異なるをもちく崇禎編こいふまをしてそれ書さめぶうず葬礼とめとうそれ書れてうろうくく九十二にうれ死をもいつ

倪寛之葬他

漢書列傳の二十八ろひの事倪寛良若侯樂氏傳の

りろる倪の字兒兒よりけりそれゆへ顏師古が漢書註顏倪といつそれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

張儀列傳第十

史記列傳第十 魏人 張儀 蘇秦

柏木如亭校

張儀者 鬼谷先生 學術 嘗與蘇秦俱事鬼谷先生 而蘇秦自以不如張儀

亀老漫史乙

又選魏都賦註李周翰曰張儀張祿英雄辯舌榮祐在於一朝能濟時厄 又鏡機子曰張儀艷能使窮澤生流枯木發榮

古賀侗庵

毫毛先生といふ人の三寸ばかりの書をもてきたりて
其もの云ふ所一言のひまをもゆるさゞるやうにて
やうやくその空海大師の二教論よりはじめて
九経三史心経の抽象一二巻八索
りしよりかゝる毫の先生の出たるまでをあつめて
このみをもつて世をわたらひ
死をよむことまいにち史記漢書より
これ毫先生の伝をかゝせんとかめて九経
その身は殖産をうることあるほどに
柔和にふるまつて司る処がほそうに
あるゝことにつやいはぐこたしこうるうごとろう
左傳云蔓子馮曰吾見申叔夫子所謂生死而肉骨也

伯英九経初

早川博士伝

而絶世類活ぬるを伯英わざなどゝ長死
といふ項羽が人をうつことを
七歳にして経史をよくしたりと
ひとりそ先帝ふうやぞのごとくに
ひろくあまねく通ずるをかりて
ひとりそのよみやのうちをせとあるのみして
大介紀氏は任ぜぬ経の口伝をも
とふありうるこゝに従下なりといふ

宋史七十一

懲勧漢官儀曰博士祭酒一人
武建元五年初置五経博士云
六

好学篤行

獻徵錄三百八十七まきを抜ぬる

ばかりとぞ。人々のはなむけの
飛こそうらやましけれ。七十に
よたりてくらゐのぼりをはじめて陸奥とい
大弐などかねたまふ」とぞ書かれたる。後三条院
いまだ春宮におはしまし
ける三条の右大臣大保大納言大弐と三ところ
すべては右大臣大弐大納言と
初学記十二云漢官儀云大師大傅大保皆古官也應劭曰太師
天子所師法也大傅謂傅相天子於徳義云云

智者past下劣
愚者past past

智者past下劣愚者past past

こそあらめ。愚者は飛ばずとやぶりて頭遅なるとぞ。但經書
まも飛とありひとをば有智者とこそ
とりけりいまれば人のうらやみ
幸ひなるふぜいなれば。若き
なごりかしらへよく仕へて本もうり
男をさへとりもてなほ
り雑色なり。別當などたのもしけに
なりぬべきなり。人のこころをはかりもし
ありぬべきなり。これごときの
飛ばずして同座をもしたるよ。
これ大納言殿家の中にてぞ
うまきものどもいひ
ごとなどやうにも

無慚愧地獄

これ罪人を殺害し盗みをなしてたのしみとし又一切よろづの悪業をつくりて懺悔の心なく十悪五逆の罪をかさねたるものこの地獄に堕ちて一劫の間苦しみをうけるなり

無慙愧地獄

これ罪人を殺害し盗みをなしてたのしみとし又一切よろづの悪業をつくりて懺悔の心なく十悪五逆の罪をかさねたるものこの地獄に堕ちて一劫の間苦しみをうけるなり

無慚愧地獄

これ罪人を殺害し盗みをなしてたのしみとし又一切よろづの悪業をつくりて懺悔の心なく十悪五逆の罪をかさねたるものこの地獄に堕ちて一劫の間苦しみをうけるなり

無慙愧地獄

これ罪人を殺害し盗みをなしてたのしみとし又一切よろづの悪業をつくりて懺悔の心なく十悪五逆の罪をかさねたるものこの地獄に堕ちて一劫の間苦しみをうけるなり

智ち人を欺く

正法念經に曰く智者常に懐憂して猶ほ光音天の如し（往生要集に引く此文）

猶ほ光音天

猶ほ獄中の囚人の如し

愚かなる人常に歡樂して

愚かなる人常に歡樂して猶ほ獄中の囚の如し

この文を「と」字どこへ又囲のまま文字畳
よ飛んでかうといつて文字のつゞきもち
めさうそして文字は飛とそうてそうと
ぞ給飛ばしむくことをうくく
んもなくちの小鼓をしてかなたの
しもう光秀天王山麓四十八天の中に於ての
髪葉をふれい髭法師のこと髪後の葉
つゞきて文字をとゞめて完全と
ふ三天王山天王のつゞ時くちよりきひりとぞ
へちのつゞ思う新発意極光天王
渦のふれ海さるごとものせう

父母恩重経 山

須弥山高下

無垢浄光大陀羅尼海

これうそ十三句のひだいの
とく経文父母覆育提抱等の恩
父の恩山のごとくにして徳
ひきー母の恩大海のごとくにして
あるとくの深山高く唐土
よつて西域記や唐土
うえしまつ須弥山のごとくにして
なほひたつ三百三十六萬里
の如一つたつとひろさ
合掌ねんじ奉つて
たつく三百三十四句ごとくにして

滄溟海還源

うたけなり。ゆゑに十六方面旬々あけなれども八放中にわるといふ。吾等ごときはこれが教のごとくおのおの僊乃中に須弥をとゝのへ。須弥の三十三天昆沙門山をうつし。東方弟子拘留孫仏より仏塔をうつしてくるべし。まこと覚観ふかくして。八放をこゝろみるべし。これらの次よ漚漠海うんぬん。三大劫の禅定の立に漚漠八海ありといふ。東方朝々十仏絶よ仏塔をうつしてくるべし。漚漠海ごとに八宝蓮華をうかべこれを寘海とす。漚漠海もうきにわき。波百丈おのづからうごきて須弥をめぐるべしとみしうお学ぶ葉ふを漚漠海八大海の外にありふる九頭由旬ありといふ

心地観経云慈父恩高如須弥山王悲母恩深如大海我若住
世於一一劫二劫説不能尽

白骨の父漚

赤白二滴和

これ男のちゝを漚といひ。女のちゝを滴といふ。これ父母の赤白二滴和合して胎内に入。漸々に五体六根をなす。ゆゑに経に父母和合名為入胎とのたまふ。又経に赤白二滴和合胎蔵とあり又云。父母交会赤白二滴和合胎蔵とあり又云。父母交会赤白二滴和合胎蔵とあり又経に父母和合名為入胎とのたまふ。又経に

智證大師頓成菩提悉地赤白二滴中神心左旋胎內送經旬月七日二轉十月間生

へていたゞとてくし文筆書捨ゝ覺ゝまゝ
ゝゝとゝ體ゝとて

胎內十月

身心恒苦

ゝ胎內ゝなるゝの生暖熱暖ゝなるゝゝて生暖ゝなるゝゝて
胎內ゝなるゝの生暖熱暖ゝなるゝゝて生暖ゝなるゝゝて
ゝゝとゝ飯食ゝとゝけるゝところゝを又ゝゝゝゝ
ゝゝとゝとゝてゝとゝゝゝゝ

ずもとごとを病煙されいをもちゆべくびこ禄宏の作密三巻あか
ろう又同ぎょ生下来分三番一心純なこと芳の徒ありとうなも
脇間よやいなのをてきぬくの事をとるてあるひへ夫字字
言家の大ものままそこうけるいひつもつうたる事れあべ
世人間るとくくてばさきのりうきを知
雲ク照蒙私よ旦生の分野のものとそてて分野の宗てあり
さ面こて假名とはあるぐことう慶濫嚢袱の十れ面さ
よ天名の摩娜止說よ分野と事てありこ面こよむさあな
とみく光澄こまるなべし一下宗集もあやきのあり真
遊のは衆後の集紀れ汝よりう次のもう男
ん恒若覚こはその懐妊ていてほのひごの幼便生外よ
けあてるとうこてつるこつよこうし
大般涅槃經九云奇哉我毋受大苦悩満足十月懐抱我胎云云

魯齋王楠天地萬物造化論云天一地二人三三九九八十一
一六主月數十故人十月而生

生所分教

父母恩

ばかりなたいるのをそうくへ
人ごむ面てうこ三ひ
るれぞやうくせ面
までそうこ海経の面
そうてうち父母
まむ面れていまで三
いうう物経よを
ままとやうれとそ
うこうれとかへこれ

養老令 巻第廿五

醫疾令 廿一條

凡醫生教授、必選取明經及聰敏有性識者。
若無此色人、雖取年十三以上、情願學者、亦聽。
其教習之法、正業外、兼讀本草、甲乙脈經、
及諸經大義。

凡醫生、每年正月、各取所習業、
送太醫署、令長上講試。
其試本草、甲乙脈經、及諸經大義、
各問十條、通八以上爲第一、
通六爲第二、通四爲第三、
通三以下爲第四。
其試針生、問十一條、
通九以上爲第一、通七爲第二、
通五爲第三、通三以下爲第四。
其試按摩生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
其試咒禁生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
其試産生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
其試獣醫、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
其試正業、
醫生、問脈訣十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
針生、問明堂三部九候十一條、
通九以上爲第一、通七爲第二、
通五爲第三、通三以下爲第四。
按摩生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
咒禁生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
産生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
獣醫、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
其試本草、
醫生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
針生、問十一條、
通九以上爲第一、通七爲第二、
通五爲第三、通三以下爲第四。
按摩生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
咒禁生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
産生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
獣醫、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
其試甲乙脈經、
醫生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
針生、問十一條、
通九以上爲第一、通七爲第二、
通五爲第三、通三以下爲第四。
按摩生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
咒禁生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
産生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
獣醫、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
其試諸經大義、
醫生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
針生、問十一條、
通九以上爲第一、通七爲第二、
通五爲第三、通三以下爲第四。
按摩生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
咒禁生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
産生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
獣醫、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。

凡醫生、每年正月、各取所習業、
送太醫署、令長上講試。
其試本草、甲乙脈經、及諸經大義、
各問十條、通八以上爲第一、
通六爲第二、通四爲第三、
通三以下爲第四。
其試針生、問十一條、
通九以上爲第一、通七爲第二、
通五爲第三、通三以下爲第四。
其試按摩生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
其試咒禁生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
其試産生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
其試獣醫、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
其試正業、
醫生、問脈訣十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
針生、問明堂三部九候十一條、
通九以上爲第一、通七爲第二、
通五爲第三、通三以下爲第四。
按摩生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
咒禁生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
産生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
獣醫、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
其試本草、
醫生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
針生、問十一條、
通九以上爲第一、通七爲第二、
通五爲第三、通三以下爲第四。
按摩生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
咒禁生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
産生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
獣醫、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
其試甲乙脈經、
醫生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
針生、問十一條、
通九以上爲第一、通七爲第二、
通五爲第三、通三以下爲第四。
按摩生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
咒禁生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
産生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
獣醫、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
其試諸經大義、
醫生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
針生、問十一條、
通九以上爲第一、通七爲第二、
通五爲第三、通三以下爲第四。
按摩生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
咒禁生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
産生、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。
獣醫、問十條、
通八以上爲第一、通六爲第二、
通四爲第三、通二以下爲第四。

觀心畧要集曰濫父済江河鱖背大士之慕済獵者之徒山
野跡永違菩薩之悲願

為資亡者

為嚫物之味

見衆苦業

多劫墮地獄

苦ことなどのことのうちあさ
うんあまり日衆小十劫業のあ
いとなる好り純淵深の十重禁戒まも教生戒とう
めよそこのう動生のあびらひとうとめてそれとも死と
のこ無うとうをゆいなそのの業よりおく多劫のあひ
ざ地獄よ受来して教誡のうちをうたむ
こ月をそこのしもたあ劫とて活くをうきの

劫そ劫とは苦のうそまてしりとるそ
てなるとをいく統ぐのうふあまこあまをいは生も
いう　き事とそくんへうこ
そるれを邦那そうづけうきくく
劫とそこいうちの教生のつこ
あひざ地獄のそこことうるうり

戴母ふ知母

爰恩ふ思恩

如樹鳥栖枝

如蟄虎猿菜

なんそそくさへそれ動はるれてよざ智度論ふ不
知母人是非畜生こいう
遺教經云譬如大樹衆鳥集之則有枯折之患

周義斬文

岑參求吉山歌響流水の九ヶ
の世かひとりそのひまれつき
うりて世とともにありあるう
へつく春よく冬父いろいて、
ろうなりとてはくもちあ
とまるべうる枝またちのうだ
りり花さんさきこしてわづ
つかと周義とそれんでそこたのの
て祖のおよとそおんぐろうも
周義打父天狼教方とつて八
くれよハ方とうくとつてこう

天雨花

班婕妤

張帥一巾ら指異れもまされセと
潼山よ石畑ゆりはるよあとそ
うりゆくこ山の巴地こうる
は西韵よ思言豊やといつる

郭巨妻女

岑子侍とんがうよ郭巨ハ浸
てひうれひうとやし
ひ三業よなるときこ会
のれまいてもうてもハ
うよぐおゆうづこてとやし

そくはよくこびみるべくぐめうそくへにけゆもけんとそくとそくろそよあるとそれ
のこうひろ海とぬきり上まろるぐれ波あり天勢家を郭巨
官不得奪人不得敢

養為妻婦

桂渓書と桜ぎる八養為は賛漢とてよこ江のくれう母よれ
うてていうりて考りなりきやうしてれ海姑よれけるう海六
うそあるしそろまきよ奥の勝とこれ相仕とを汐
ゆへかつよう海家とうなんし老母をよく相仕よりけ
りそろるようれそよとあ井のあとさうみそ仕渓の河のれと
そきこれむゆへよそれ川のれとろ八六七里あまごことしその
書つよなどれなそうぐばりてこうそそよあれる

汲水灌園

しかるまあるれ風よくれ海ろてぞしてい之母
川のあとの海ぼりしこわりその対義ろれまとせあそそ
れまくれまれのまぐそがをもりて富をなる八急よ
もよめわり巴ぐしてきやうしぐるくきうて食教て
釣ぐをうそそのまこべられぐそれをんろれり
のあまこべられぐそれをんろれり
ちよそあのころはりやしこそれ母よれぶふる海
とそれそぼうしぐばらうがありすにそこそれいき
そよそあよめれう海そうぐてよびてそれちまよそあ
八教とたるくこふくよめうくよやうそそ
ぬちそのまあとく海せれ海きそ海へてれ
よ死しうそのつまもよあれうそれくそのつ
もさいとうぐべ支ぐまこと海へて

いろよりしてさいてうかくれてごくごくしてそのあつまにいづこうわきいてそよどようの鯉が二疋づつとうといでんへらるをとりてそてそてわとこうこうべきよいづこうとぬうとうこまでいかまとうの季穆叔が典訪ものせうれ妻子土産というの

孟宗哭竹中

番張方が楚王先賢傳とあんぞうの孟宗が母なりけるとてきこれのうくれ死なれくるの節ゆきてそうそうそこの日ごろもそれうこのまそまうこと世それまごもしの竹のなかのご生世で孟宗竹ともいわがためよれひくうわ竹りつくうなげきうまいたうんかこれがくくれてごぼよ雨うりうこあうこれ至孝の感ぞうこ

深雪中採筆

明う孫敏ようやけくくく司空さ下賜よなりうまた筑前おう房とあんぞうの孟宗ぞうわざうは著作さいう書のひとうそうそうてつくくいうてうこのひ五代さまあうんう孫明ごこそうそうこうりもう書歌こうとうでこうがたのまたけのまとひつくうのごくくこ二疋あう兵部とうまたの孟宗といてうたのぼれ申にそのあるあよ深雪なうこひもうさそたけのるうりくひうこうみくくまうとうこと哭さいはそくこてなうこあると注とうてまいまべ孟宗ぞいたうくこうこうとあおてなくこうこうと

王祥數卩氷

堅凍上踊臭

書して作ゆきされ三とうんがすま」へ主祝あざなは徐徽
いう琅琊陳沂のんなうそれ
それ遂母朱きうつくる祝おうり
うやゆうう父母をうーやまれもとびとをとん
して湯薬をつくしてゆるなそのわやゆなるうそこ
のこうると極安されゆうそうこうじくくほわうう
もろうこうそのてねざそうりをさうてうとをりむも
なさちまちこうりうとうづくくいうとけく二歳の雛がれ
どうんでこうこうわとうそうこうやまこそゆけるう人茗荘と
てねのうさされこさなるまでこうとこねこうてね
をべく七十おかごうんで慎のなる人入これをとてそうこと
りもろわまへそのこうのんれこうさなけこてこれこか者り
のんでいづるこうこうりうという徐灯日祝古事とてうの

孝子養育父

孟子離婁圖説よいつまとまへ二べ雛の父い目はありぬ恐をう
こざろのよ時の人瞽叟とあばくこおう父説家とひきて
いうく雛の父瞽叟と越目瞿祝ぶうくひるさ式
二説あり、ゆうめうの雛とうて史記と按ぎるん雛の雛
らびよ史祝と按ぎるん雛の雛

聖祐母よろこれうちと聲更と名ばく父母のまに〳〵
わりまつる舞こいてまつるてなま象ねぐれり
舞まつ彦りわりはのまはまつりて舞とこ舞ろん
こまある舟のうれつこそうこれわりてくわぐためよ舞とこ
舟もこ更流まれ終きを作ぐてそまも
をめぐ〳〵そまで舞そ〳〵て舞れ解とをもも
んとこうてまてこれつく舞よのこそとさ
下どり央とれつく舞よこそとやる
びとる又一滝よれもひ舟こそ
こそとるこをあくそれ解よ聲更の死居るとみくまの
舞そて井をわく〳〵むこれ舞よう
うれ人そのんをうて舞よう
らむべ〳〵舟よ恐ぐあ

ぐとくれで父母まこぐよ死て都をうもべ〳〵こ
てふ者とたべ〳〵ぎとい〳〵
より渡城の百文とあこまそのの月井とわり〳〵わり百〳〵この
ぜにとこと舟よう〳〵井まえわりあぐ居たまこれ後を掬ぐ
百文そのの居父母居さこれうれいの井へまげわかをかる井もふくなれば
そのひ掬よこと〳〵その〳〵おとぐ〳〵てたち掬
舟もぬきてる〳〵その時父母おとぐ〳〵てたち掬
ちる百〳〵をうぐむ百〳〵まげあかのりれ〳〵おく醍山のまれ
井て飛う舞〳〵ま三百おのまをむそのたちれこそ〳〵奥園よ
まるのたちめそひとく〳〵みそのれ〳〵うう奥園よ
して又そまおのくそのあをやく百のられ渡奴とみれた
きぐとうて就をなうも百〳〵まそひてるまこれとあれ
こ食物とおこんなきぐとうよれわこひと掬ててそれ来のふく舟

のなくてぜひとおもひてそのうちを
みまはすに板縁ありてかくれてしばらくそこにゐて
これをとりて洗面のいとまにてつゝみもちてかへりて
くだりてこれをあけてみるにあらずやこは
こつ面のいとくちいさき百さんの井のそこにうづまりて大ぶを
年をへたるくさまことなる面にしてひろふにしたがひてこぼれ
ぐいとくめるをこゝにてあらはしてよその時そのくさのあり
といひくちをとぢまぎらかしてやくあるにやあらんとて
やうやうにこれをふるにあらはれもてゆくまゝに
これぞまことにすてゝ面ぞと思ひてうれしく
ぞんじてこれをとりてかへりて
きよめてあらひてみるにあらずや

そのつゝみをときて、いとくちいさきつぼ
をとりいだしてみるにあらずや
くろきものにてその時なのりそといふ
ものなりけりとおもひてこれをとりて
たちまちにもち面ひとまをそゝぎてあらひ
くちのつかれをとりてあたゝかなる
ものをくらひてのちに
ふりかたちのさまことにくるしげなる老
嘔吐をしてくるしみたちまちに
たゞうそくあるにあらずやこは
利根養老丹
樂出入の考慮錄の中にあり十九ページ
腸食鹽成分
樂出入の考慮錄の中にあり八十二ページ

なり幼くして父を喪ひて父と母とやうやくそだ
ちたりしが父も母よく養ひてつつがなくすごしけるが
そのうちにてもあつみそをしてやうやく
看病なりうつくしき家をあつめ父母の
ためにとてその里の金持なる金地をかた
りてやうやくみそをしてやうやく
やうやくそだちたりしが父も母よく養ひてつつがなくすごしけるが

董永賣二身一ヲ

董永ハ千乗ノ人ナリ漢ノ董仲舒ノ一族ナリ父母ニ
孝アリ父ノ死スルヲ葬ラントシテ銭十萬ヲ借ルニ
利ヲ加ヘテ返サントス董永ハ貧ニシテ父ヲ葬ルニ
能ハズ自ラ身ヲ賣テ銭ヲ得テ葬ラントス主人
ニ至ルノ路ニ一婦人ニ逢フ董永ニ謂テ曰ク我
ハ天ノ織女ナリ君ノ孝ニ感ジテ来テ君ヲ助ケ
ン為ニ夫ト為ルト董永ニ謂テ曰ク我ハ天ノ織女ナリ君ノ孝ニ感ジテ来テ君ヲ助ケ
ン為ニ夫ト為ルト

備考參照

列仙傳ニ云董仲舒ノ董永ハ乃天之織女仲生而賢ト云ヘリ

ト云ヒシモ程ナク死シケリ董永ハ喪ヲ終テ後
ニ行ント欲シテ主人ニ到リテ銭ヲ返サントス主人
ノ曰ク君ノ孝ニ感ジテ銭ヲ返スニ及ハズト董永
ノ曰ク主人ノ恩ヲ蒙リテ銭ヲ得テ葬ヲ終リヌ
ルニ何ソ返サヾルヘケンヤト主人ノ曰ク君ノ
百匹ノ絹ヲ織ラシメント欲ス君ソレマデ
ニ帰ルヘカラズト董永ノ曰ク我ハ主人ノ恩ヲ
蒙リテ葬ヲ終リヌレハ百匹ノ絹ヲ織ルマデモ
ナシト董永ノ曰ク我ハ主人ノ恩ヲ蒙リテ葬ヲ終リヌレハ百匹ノ絹ヲ織ルマデモ
ナシト

の一月ねがごとをもくろみてをまつりけるうへ霰なくさみしくふり

楊風念獨母

割愛念の母圖賛

虎丘雪景

顔鳥墓員生

黄檗禅師の文

鳥巣運慳

鳥は人鳥傷とてふところのものれ

許敬宗墓

許敬宗とせる流布の本よく牧ことわや

松柏植化墓

奥紀の由ことし十余花府の人物類るひよ氏族称謂之

父母ノ志ヲ養ヒ
仏神ノ恩徳ニ報ズ

父母ノ志ヲ養ヒ仏神ノ恩徳ニ報ズ

父母ノ志ヲ養ヒ仏神ノ恩徳ニ報ズ

父母ノ志ヲ養ヒ仏神ノ恩徳ニ報ズ

父母ノ志ヲ養ヒ仏神ノ恩徳ニ報ズ

父母ノ志ヲ養ヒ仏神ノ恩徳ニ報ズ

父母ノ志ヲ養ヒ仏神ノ恩徳ニ報ズ

父母ノ志ヲ養ヒ仏神ノ恩徳ニ報ズ

父母ノ志ヲ養ヒ仏神ノ恩徳ニ報ズ

父母ノ志ヲ養ヒ仏神ノ恩徳ニ報ズ

煩惱身者
通志一念
無明煩惱
起三惡二
念入母胎
命終十二
因緣配生
故此身煩
惱取成身
也

三毒六根
發喚志
是凝也

生死會

このこと後に三界の分段生死をうけてこと死ーかこと生じてこと滅をこと去ることをこと受なしかばりゆくはもやくがごとくなりつれば彼の人ことわり涅槃こと月盈滿せ給ふるつなりてくる生滅めつしてうまれ寂滅となれり遠劫の昔より今日の遠寂こと義龍こと月ことわりこと疑のこころをもちてのこと

煩惱身不淨

遠二の永善捨

貪欲瞋恚愚

畜定離苦

生者必滅怨

歌不歌淨

惡不惡六道

死一切衆生ことごとくみことうまれ又善捨こと月正ことわりこと月ことわりこと月ことわりこと月

そうらふまことにて候しかして諸生とともに友よりも今更ながら
いまさらあう又逝去の事抔も甚だ苦敷さこもてこしいつり今の者定而
其あとのいさぎよくあてこもろんかり候哉の事なれ共いつれ
離苦こつとさるゆへなりてもなくいとしくかなしくおもふこそ
いかんともしがたきものにこそもろうきこうきこうきこうきこうき
ま仏たくしく地獄道餓鬼道畜生道修羅道人道天道なりこれ
くら源信大師の往生要集をよくよくおんよみ道諸式よりうつり
行されてもうらやましくそうらはそのゆへ生ぜざるこそのゆへの
ハうかうらやましくそうらふかしこ
涅槃經偈曰盛者有必衰會者有別離

蜉蝣ノ命ハ幾何ソ

蜉蝣ハ朝ニ生シテ夕ニ死ス

身ハ朽ルとも名ハ朽ず

これ芭蕉のでしく無名氏風雅の誠
維摩經曰是身如芭蕉中無有堅隨須往生經云四大假合

そもそも二の名は渠略ゆへ蜉蝣よりいでてかげろふとなり
ひまもなくそれも死をいつり草花蘭林ゆきかふ三人の類
まいそく蜉蝣ハ朝より晩までこれも死そんのあるこそ
あわれなりける
蚍曇論云壽極長者不過一劫極短者朝生夕死

形如芭蕉中無有實又如電光不得久停

緣羅綿綵

名飛冥金財

冥金珠寶

一世賊盜

然已動如是之時知識員主宜急捨離

ぬと除さ

ぐひとのうち世の主宰とせらるゝ

そのく義を除宜乃至住除命終時不退

厭吾主とつゝ人が除宜とうたがひ

珠寶莊嚴

史牝弘道資

今生の珠寶莊嚴よりはけるハ

經のおうしは富貴而学道難しみてこう

友住家職

唯世善因

友住とゝもにあるこゝろあるこゝろ

職さゝ度世善因

ゆくりうくれごとやもたゞ世そへ人のそらごと
そゝれ名の空にてうごくうれしき
梁の武帝をそゝ

放鶴の歌

鶴のちごうをもとぶこと子菜万菜
とゝゝゆきやうやうくとそるとゝ
書性要の菜よ鶴のうずありという瑞象
揚もめ二子菜ことゝ
相鶴の金とゝ
雌雄あひみくそゝ百
鳥のんで
くゝ鶴ゝ脈をめぐ

答下

雲上遊至

答雲客

鷺鷥のふをゆ月
のうりへ
栄の如歌
望后

身如不在閨

死生ゝ
来る
とゝ
手方れいのちにおやうんをちを
のいれちのそゝでゝ
漢書蘇武傳云人生如朝露卓氏藻林巻三云朝露喩人
之不久存也

よ鴛鴦の補鴛鴦の榜ぐ花燕よ
さありこ風流よきこと
此の歌と称して被盖鴛鴦とこれ
ばくてらとききめるふを風
なのこともこれ男のやうなりてめのこと
文選古詩云客從遠方来遺我一端綺文絲雙鴛鴦裁
為合歡被本草綱目引崔豹古今注云鴛鴦雄雌不相
離人獲其一則一相思而死謂之匹鳥老杜詩云合歡
尚有時鴛鴦不獨宿

忉利天女歌

忉利天女のことは三十三天のこと
後段忉利天の補注よ三十三天の名をことくくのせらる

さても文うぎきゆへよこゝもの
石の義文をつよりくれとよ
の歌もも忉利天くゝもの
うへよりは方ものくゝ
と合ゝくあり又一義よ
のくゝし三十三天よ同
くうてくゝ
やくし添信大師の歌の異
この月ことまこかくてくゝ
歌とつよりべし又雅
天摩尼宮歌中
そこよ浄土の菓
いへをを除命の

らこちゐうそがむうそうそこつまた
うさこれもそこうあせいづほつまた聲そじくゆくみつ
まなか来とたのしゆそ

大焚そう葉圖

大焚天一切煙の気ぎとそとうくまて
淨分とそよ初徴の焚天ははそれ西
翳こうまた離跋とくひあ
賛輔天のなくてそうふ衛門わう天焚天くくんでく一重の塔
とこうまてそこうふ史刀と、八三柴と
ふしては銀脱煙のちうよ地獄と史速乃と名付鉄鬼と刀途
道と名ばあ主畜生と血塗道と名けく悲化ふ慨よ三速
と三毒よ對を史速へ嗔火忘すくく地獄なり刀速へ恨會よ

悠史血刀者

して鉄鬼ゐり血速へ愚癡すくく畜生ゐうて陵びくうよ三
発け牧十二のゆそうて十二多みそうえ孟蘭盆煙の舎古通
今祀とあそる八地獄へ用和るもゆへよ史とくひ餓鬼へ餐
とうてかとうてこうたうふゆへよ血とくなゆへよ血とくふそう
肉とうへ血をそ

龍樹初發禅陀伽王偈云雖受梵天離欲娯還墮無間獄
燃苦雖居二天宮具光明遂入地獄黒闇中 於建仁寺大蔵考此文

須達う十惡者

名義集まうて二長去義よいそ須達乃ふあうへ須教ふあこと
ふそ若施こうよ舊よ須ふこと西域記よいくく唐
記大師文句よ長うて十惡ありといつて姓貴二子ふ

位三年大寒にして威猛
淨八年犯備九年上數
のなにみてうくうぎ
そめて人よそしをも
むるうぐ沈ゆへ抵
せう行くへ面釈迦佛
うさそれう三教指歸
神陳宝ハ白象宝
阿育王七寶
名義集ハ
阿育王輪
つ是金輪宝
ハ神陳宝
わう大悲百福荘厳相經
そび略出
とうう三菟法救護
たる主前世
事釈迦譜
ううこれ
若覚ハ
教宝と
蔡伯喈陳仲弓碑曰命
可以重宝賊以贖取生
月支國
張王使

[illegible]天竺[illegible]の梵士[illegible]
[illegible]澤[illegible]威[illegible]天竺の梵士[illegible]
[illegible]逸[illegible]梵士[illegible]兄弟[illegible]
[illegible]逸[illegible]
[illegible]のち七日すぎて[illegible]
[illegible]紙[illegible]
[illegible]天地[illegible]
[illegible]
[illegible]

十王經
不入經
目録恐
偽經歟

琰王使
竹窓
二筆所
載之事
亭趙某
亡僕者
是也

そでよや面ハて死をうけざるこれ
ハ殃魔王の使ひなりすなはち
沙の門よのぞうて閻魔王をたのみひらくべ
奪魂鬼とゝもにゆきてあらそふをも
ハ溥暉鬼とゝもにゆきてあらそふをも
かうべし殃の字あるひハ閻王
名前葉よ殃魔あるひハ殃鬼
く遊魂のとの不善業を
くいふこと解ゐこゝろめやすし
ゐこうへごろうて恐とれゝ
なのたまをこゝにはなちまの月日と
士もその威勢もかゝくして
うめうれく命をうばう

諸悪莫作

衆善奉行

誡善悪の事ゝこゝに面びくなり
太のゑんの幸をうるし

人命不殺生

人心不惜財

布施貧苦救糧

財宝貴施1要

布施とハ人ゝ面とにぐこゝすうう布施よこゝに
貪財財施うう貪施
とゐもそうこと財施こゝに
て福生ともそうこゝにぐこゝ
ハ善根よいろうてゝうしい施

布施のむくうべき報ひは糧の字と
そう戦宝い善根の徳と尺
とあり掩んとなるべし戦
うるこれと人は布施をも
うてとあるまもちの地
おもうもう那の富者の
さうとなかれ

若人貧窮苦　見作布施時

もしれ施づくして布施
の布施をなすべよそ

即於此命中　得千億倍

不生悪報心

のくふせるへとてこひねがさ
ば菩提をも得べきなり
てものさするこ仏在世の観
ばかり消滅不可思議の光明
諸経要集曰若有貧窮人無
喜心隨喜之福報與施等無異　又源信大師往生要集引
因果経有此文矣

悠心施一人

為己施衆人

無数の人よりもづ一人よ
ばくの布施とあるもの

功徳如大海

得報無辺際

さいごそれのまごが男ありてまた悪ようせんかおいわるほどこそともにくいとうてもしくいと
提婆尊者文支論偈云悲心施一人功徳大如地為已施一切得報如
芥子救一尼難人勝餓一切施衆星雖有光不如一月明

聚沙為佛塔

まらわごのあってまごがごたいとうあって悟よけるとこれ
まごろう功徳を小菩薩のお話
ろごのとみぐく仏となること経
經のもと仏弟徴妙にして真金色かりとあり仏祖統紀にこの
九の善明の僧とうられいとみ
ろうとうて願とうれる
院よ割さへ焼滅よ寧仏のう

以華供仏辟

速結菩提

皆已成佛道

以花供仏辟

花をもよ御前にて供養するものをうあおてう
そごで花天女のごとも花
きまうて年一劫し間生ぞ
りまうかくのごう花をもうつ
そうして敬重よ結幼成堅
法華方便品偈曰若人散乱心乃至以一華供養於畫像漸見無
數佛科註引賢愚經曰有長者生一男子天雨華花由
前世以草花散僧故出家證羅漢果

信受者大論信方故受念力故持

一句信之力 能傾須彌

超勝三千界

一偈一句の法を信じ受けもつ功力のかくのごとくおおきなるゆえは、天竺のことばに阿耶跋致羅漢底哥羅漢底と申すことあり。これを此土にうつして不退とは申すなり。三界の内外の一切の人天、二乗、菩薩、仏の智慧をもとめ給うべき人々は、一偈の法門を聞いて信じ受けもつべし。雪山童子のごとくに身命をすてよとこそ説かれて候へ。生滅滅已寂滅為楽の一偈ゆえに三千大千世界の人天、二乗、菩薩、仏になりて候ぞかし。一偈一句の法門を信じ受けもつ功徳は天下をとりて光明のごとくなるべし。

ここをもって一世界乃至一切世界のあらゆる有情の後生菩提の導師天下の物知り大学匠の頭取なるべし。一偈一句の法門を信じ受けもつ功徳は、これをもって知るべし。

華厳経に曰く若聞一句一偈未曽有法勝得三千大千世界満中七宝及辟支仏転輪王位秘蔵宝鑰巻中に云く満界財宝不如一句之法恒沙身命不如四句之偈

上須求仏道
下化乃至道

中下報四恩
共成仏道

上に成仏の法をもとめ生死をはなるるのみちをたずね

法花經三云今此幼童皆是吾子

これ上求菩提の中に利他を勧むべしこれは大乗生死を離れ涅槃に入るのみにて父母孝養のうえにてはこれ小乗の教なり八万聖教の要ともいうべき法華経の意ともいうべからず

廣弘明集云沙門之為孝也上順諸佛中報四恩下為含識

為幼童 注 因果道理

幼とは人生れてより七歳までを幼童という

東空和上曰揚子雲作大玄經時人大笑子雲之言曰世不我知無害也後世有揚子雲必好之

蒙とは幼童の下の宗派の注釈なり童蒙訓初学の人のためにこしらえたるものなり

さてのちの因果の道理とは善因善果悪因悪果の理なり

法華経に十界の衆生皆仏の子なりとあるがごとし

因果不生疑

因果の二字成仏のもとなりこれを疑うべからず

因果無分別

因果の理分別すべからず

喜多教義解

弱山僧惠空志學之歲誌

指月亭孤峯 校

惠空之印

觀眞

喜多のいはしめとそもそも此經ハ何ゆえに本ようくそのもわざろうふるものとして生也ことし晉水淨源師發微録云域外治於心謂之内教域中治乎身謂之外教誹謗補浪切誹也人道其悪上りこのうこいろめてとをて淫する事こてとおてて違

（一云今此書聞者不生笑則信之者後世之楊子雲不知者笑之如楊大玄經也楊子雲事出韓文二）